

自己評価および外部評価結果(ひまわり棟)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時、理念及び介護者の心構えとしての誓い文を全員で唱和し、徹底を図っている。また職員会議等を通じ、理念に基づいた介護ができていないか、考え方や姿勢について職員に意識付けしている。	毎朝の朝礼時に職員で唱和し、理念の共有を図っている。職員も理念について理解、共有もできている。オーナー自ら考えた介護理念を常に目につく所へ掲示している。また家族会でも理念を提示し理解してもらっている。職員全員で「心美人」を目指し介護を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会及び幅広い種類のボランティアの方々に多数来訪頂き、交流を図っているため、顔なじみの関係が築けている。	利用者が真備町内の方が多く、事業所を利用後も地域の方々とのお付き合いが継続している。またボランティアの訪問や地域の中学生の「チャレンジワーク」を毎年受け入れ、交流が継続している。運営推進会議への町内の方の参加もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人への理解を深めてもらうため、外部の実習生を積極的に受け入れ、当ホームの良いところをフィードバックしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当ホームの取り組み等について、また会議を通じて地域の方々との交流や意見交換により、認知症についての理解が深まっている。また会議でのご意見は、大いにサービス向上に活かされている。	運営推進会議は2か月に1回開催し、高齢者支援センター・近隣の特養の施設長・社協・民生委員・家族会・元町長などが参加している。家族の参加率が高く、内容も工夫し、業績報告だけでなく、介護に関するトピックス、職員の研修発表や勉強会など、参加者が発言しやすい内容になるように配慮している。	運営推進会議は参加者も多く内容も工夫され充実したものとなっています。家族会も同時に開催されているとのことでしたので、楽しみの内容も入れてみてはどうでしょうか。食事を一緒にしたり、ボランティアによるイベントへの参加、また他の行事と併せての開催なども今後検討して頂ければと考えます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談事項や提案について行政担当者と連絡を取りあう関係づくりはできている。また運営推進会議にも毎回出席を頂き、様々な情報や提言を頂くようにしている。	運営推進会に毎回参加してもらうなど、行政との関係は非常に良好である。制度上の質問なども担当者にする機会も多い。利用者に生活保護費受給者がいるので、担当者が事業所へ訪問する場合もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については、全面的に禁止しているため、利用者の動きをチェックできるような体制をつくっている。不穏などで利用者が徘徊する場合には、職員が寄り添い、安全確保に努めている。	事業所玄関の施錠は昼間はしておらず、事業所内の死角になる箇所は、ミラーを配置し、徘徊についても拘束にならない見守りを実施している。身体拘束の研修にも職員が参加し、内容をフィードバックすることで徹底を図り、身体拘束0を目指して、安全な介護の実施に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議において勉強会を実施し、何が虐待にあたるのか共通認識を持つようになっている。また、虐待が職員個人や施設への信頼を大きく損なうことを認識し、その防止について話し合いを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見が必要なケースでは、社会福祉士の資格をもつ職員が対応予定であるが、今のところ該当するケースがないため、その他の職員が理解しているとは言い難い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護報酬の改定や消費税など諸事情により利用料の値上げを行う場合は、必ず同意書をとるようにし、疑問点などにはその都度対応するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族には来訪時や家族会などで常にご意見、ご要望をお聞きするようにし、どんなことでも言っていただけるようなオープンな雰囲気づくりを心掛けている。	家族会を2か月に1回開催し、運営推進会議にも参加してもらい、運営に関しての意見を聞く機会を持っている。また事業所内の利用者の自然な様子を知ってもらうことの出来る機関紙が非常に好評で喜ばれている。遠方の家族の方々には電話で話を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等を通じ、施設の運営に関して意見、提言があったら管理者、施設長に直接進言できるよう、コミュニケーションを図っている。	職員会議の際に、意見や要望を出している。利用者のケアについての意見が多いが、オーナーが職員みんなの意見を聞くという考えなので、個人面談などは実施していないが、職員が意見を発言する機会はある。有給休暇などもとりやすく、働きやすい環境となっている。	職員が働きやすい職場となっているようです。今後は以前実施していた個人面談の時間を取ったり、職員全員が意見を発言できるような機会を作ってみるのも良いのではないのでしょうか。職員の資質の向上につながっていくと考えます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には、資格取得を助成する制度を積極的に活用してもらったり、職員の力がより発揮できる環境づくり、雰囲気づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修については、職員のレベルやシフトなども考慮して、なるべく多くの職員が受講できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネや地域のソーシャルワーカーの交流会に参加するなどして情報収集に努め、ケアの質の向上に役立っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談をし、生活状態やご本人の思い、要望などをしっかり把握し、どんな小さい情報にも耳を傾け、不安に対しても改善に向け職員皆で考え、工夫し安心して生活を送っていただけるよう日々信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを理解し、今までの経緯やこれからの要望に耳を傾け、今後どのように対応できるかその都度話し合いをし、ご家族との信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご本人、ご家族の思いや不安等、それぞれの意見を把握し、改善に向けたサービスを一緒に考えケアにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活を送る中で、入居者の皆さんの不安や思い、人生経験がそれぞれ違うため、コミュニケーションを通じて個々の気持ちを話せるように職員とも信頼関係を維持し、声掛けも工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、連絡時には、日々の状態を報告相談し、ご家族の思いに寄り添えるように努めている。入居者との会話の中でもご家族のことを話題にしたり、ご本人が希望されれば電話でご家族との会話もしていただくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時にはご本人の馴染の家具等の持ち込みを促している。また、ご本人が大切にしてきたことや楽しみにしてきたことを可能な限り続けていけるよう、職員皆で情報共有し、日々のケアに努めている。	地域の方の利用が多く、知人や近所の方の訪問をはじめ、ボランティアの方とも馴染みの方もおり、関係が継続されている。家族との外出や、お墓参り、一時帰宅、馴染みの店への買い物なども実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	何か役割を持っていただくことで、生きがいを感じていただけるよう働きかけている。また、利用者同士の関係については、日々職員間で情報共有し、出来るだけトラブルが起きないように見守りや配慮を心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、次のサービス先との連携も大切に、ご家族とも可能な限り関係が維持できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の意思を尊重し、本人本位の個別ケアを心掛けている。また、意思疎通が困難な方にはご家族と一緒に話し合い、またカンファレンスで情報交換するなどして、安心して穏やかな生活が送れるように日々ケアに努めている。	入浴介助やトイレ介助の際など、マンツーマンで関わる際に話を聞いている。また生活歴等は、家族の面会時に話を聞くようにし、得た情報をノートに記入し、申し送りの際に伝達し職員間で共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の話やご家族からの情報、ご家族に記入いただいたバックグラウンドに基づき、個々の生活スタイルを維持できるようにケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアカンファレンス、ケアチェック、モニタリングを通じて現状把握、将来に向けてのサービス計画に生かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人には日常生活の中で思いや意見を聞き、ご家族とは面会や電話連絡の際に要望を聞いている。その情報をカンファレンス時に出し合い、意見交換して介護計画を作成している。	ユニットごとに、ケアマネジャーまたは、プラン作成担当職員が中心となってプランを作成している。利用者の日々の様子は、職員がカンファレンスの開催の際に意見を出し、プランに反映させている。家族の要望は、訪問時に話を聞くようにしている。医療面は主治医、看護師の意見を参考にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や出来事などを記録に記載するのはもちろん、細かな情報等も連絡ノートを活用し、状態把握に努めている。職員は個々の情報を共有し、介護計画の見直し評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族会や運営推進会議での意見、要望や日頃関わっていく中で本人や家族の状況の変化など、様々なニーズに対応してサービスを提供できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には地域の民生委員や他事業所、役所など様々な立場から出席いただき、サービス向上ができるように意見交換している。また、地域のボランティアの方々にも多数来訪いただき、共に楽しく和やかなひと時を過ごしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医を決める際には、それぞれの疾患に応じた医療が受けられるように本人や家族の意向を尊重し、納得が得られた医療機関で対応している。	利用前のかかりつけ医の継続は可能であるが、利用開始時に協力医に変更するケースが今は多い。訪問看護師による健康管理が定期的であり、協力医は往診にて対応を実施している。急変時や夜間などは訪問看護師が24時間対応し、場合によっては協力医による往診または指示を仰いでいる。口腔ケアは職員にて実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日々細かく状態を把握し、定期往診やバイタルチェックで報告できるように努めている。また状態に特別に変化があった際には、早期報告相談し、適切な医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には細かく記入した情報提供書を提出し、病院との連携を密にしている。入院中も定期的に面会に行くことで病状把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、本人及び家族に看取りについて意向調査を行い、その後必要に応じて再度意向確認を行っている。そして、安心して最期が迎えられるように主治医、家族、事業所が何度も話し合いの場を持ち、方針を共有するようにしている。	事業所では終末期ケアを実施している。医療面での手厚い支援もあり、利用者が医療的な支援が必要となった場合は訪問看護師、協力医の往診にてバックアップ体制を取っている。家族の希望を優先するので、医師からの説明を随時聞き、変更の希望があった場合は医療機関での支援に変更する場合もある。	各ユニットの管理者の看取り支援の実施についての思いが統一されており、医療面のバックアップ体制も非常に充実しています。利用者、家族も「終の棲家」という安心感を持つことができ素晴らしいことだと考えます。今後は経験豊かなスタッフが看取りについての話をする機会を多くつくる等、色々と困難な事例もあるかと思いますが今後も看取りの継続を希望します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法については、職員全員の目に留まる介護日誌にまとめて記載し、知識を共有するようにしている。また日頃から職員同士でも情報共有し、連携が図れるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、防火設備等災害対策に必要な確認項目を打ち合わせ、発生時の緊急連絡等は確認しているが、民家と離れている立地上、地域との連携体制は取れていないのが現状。	年に3回の実施となっている。火災に対しての避難が中心となっているが、3回の内、1回は夜間想定、1回は消防署立ち合いのもと実施し、助言を受けるなど充実したものとなっている。今後は地域の協力も視野に入れ検討をしている。	避難訓練は非常に充実した内容となっています。今後は火災だけでなく、災害についての訓練の実施、また地域からの協力、備蓄の水や食料等の準備の検討等をお願いします。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中で、可能な限り一人一人の意思を尊重し、入居者の状況に沿った言葉かけを心掛けている。	職員は接遇マナーの外部研修を受けている。入社時には社内での研修も行っている。利用者への気になる声掛けなどは、管理者が随時注意をしたり、職員同士が注意し合ったり出来ている。利用者への呼び方は地域性で同姓の方も多く、了承を得て下の名前で呼ぶケースもある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活や会話の中で、入居者一人一人の希望や思いを可能な限り支援している。また、言葉では意思表示が困難な方には、表情を読み取る努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まきびの丘の介護方針にのっとりその人らしい生活を送っていただいている。一人ひとりのペースを大切に、それに合わせた対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	平素整容には気をつけ衣服にふけ、髪の毛、食べこぼし粒等付着していないか確認している。また、着替えの際に、可能な限りご本人と職員と一緒に衣類を選ぶようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	持てる能力に応じ、自己実現の場を提供している。例えば、野菜の皮むき、お盆拭き、食卓台拭き、食後の下膳等お願いしている。また、昼食は職員も入居者と一緒に食事をするので、会話をしながら楽しい雰囲気づくりを心掛けている。	事業所での食事は3食ともに、職員の手作りとなっている。野菜の皮むきやカット、配膳や下膳など、利用者が出来ることは参加している。利用者からは、献立の希望も聞いている。外食の機会もあり、誕生会の時は、利用者からの希望が多い、お寿司を用意している。菜園での野菜を使って旬の物を献立に取り入れることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面については管理栄養士が居る業者から食材の提供を受けており、一人ひとりの状態に合わせて量や形を工夫している。また、水分摂取の重要性を認識し、十分に摂取できるよう工夫し、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている方には、歯磨きの声かけを行い、支援が必要な方には、職員の声かけ、見守り、介助にて口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り自発的に排泄できるように、早め早めに声をかけトイレに誘う。意思表示の困難な方は表情や行動から、早めの対応を心がけている。	利用者の排泄のペースは把握しており、日中は出来るだけトイレでの排泄を実施している。本人からの希望があればポータブルトイレを使う場合もある。入院中に導尿をしていた利用者が退院して事業所に戻ってきた際、職員の根気強い声掛け、介助によって排泄機能が回復したケースもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自発的な排便を促すため、毎朝牛乳を一杯飲んでいただいている。また、毎日体操に参加していただき体を動かすようにしている。さらに、水分補給も十分に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの状況や状態に合わせて入浴の声かけをし、ゆっくりと入浴していただいている。入浴の際には、職員がゆっくりとお話を傾聴している。	週に2～3回実施し、マンツーマンにて介助をしている。時間をかけて利用者にゆったりした時間を持ってもらうようにしている。夜間入浴は人員配置の関係で実施は難しくなっているが、本人の希望を大切に、清拭をする等、少しでも思いに添えるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて休息していただくのはもちろん、日中の活動に参加を促し、1日の生活リズムを作り、夜間の睡眠が十分とれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の既往症、薬の内容を把握し、服薬時には誤薬、飲み忘れがないか確認し、また手渡しをしている。また薬の処方箋等は職員の目につくところに保管し、確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	まきびの丘の介護方針にのっとり、日々の会話の中で何が楽しみか何が得意かを模索し、一人ひとりに合った役割やお手伝いをしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時候のいい時期には、敷地内の散歩や外気浴を楽しまれている。また、月に一度程度はドライブに出かけ、季節を感じていただくようにしている。	事業所の敷地が広く、敷地内で散歩をしたり、お花見をしたり、紅葉を見たり、日常的に行っている。建物の間には広いウッドデッキがあり、外の空気に触れながらテレビを見たり、お茶を楽しむこともある。身体状況に合わせて、買い物など個別の外出支援も実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則制限はないので、ご家族とも相談し、少額のお金を所持している方もおられる。また、お金でトラブルになることもあるので、その際は施設で預かるようようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談の上、一人ひとりの要望に応じ、電話や手紙の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの温度および湿度をチェックし、必要な対応をしている。また、オゾンや紫外線による空間除菌を行い、健康維持に努めている。さらに、壁に季節感のある折り紙や入居者と職員が共同で作った作品を飾ったりもしている。	高い天井や、広々としたリビングなど、利用者がゆったりと過ごす事ができる空間となっている。インテリアや調度品も上品な雰囲気となっている。次亜塩素酸性水を利用した空気清浄器の使用やオゾンと紫外線による空間除菌など、換気や匂いにも細心の注意を払っており、清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一畳台を置き、そこに横になって体を休めたり、気の合う入居者同士おしゃべりをされている。また、ソファにゆったりと座り、思いも思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、馴染みの家具、調度品の持ち込みをご家族にお願いし、居心地良く過せることを心がけている。	基本的には、自宅から何を持参しても良く、居室のレイアウトは本人や家族の希望を尊重している。月に一度は掃除の日が決められており、通常の掃除とは別に、箆箆の中の整理や衣替えなど、利用者と職員で実施している。細やかなカーテンの洗濯など居室内の匂いにも気を配っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ADLが低下している入居者もあり、できるだけ自立した生活を送っていただけるように、一人ひとりの身体状況に合わせ、安全かつ安心できる環境を提供できるように努めている。		